

転退任される先生方 お世話になりました



英語 吉田 敬三 先生 ご退任



保健体育 本田 球見子 先生 ご退任



養護教諭 定松 正子 先生 ご退任



理科 畑島 博 先生 ご退任



英語 杉本 麗奈 先生 ご退任



商業 山田 圭介 先生 ご退任



中国語 楊 川 先生 ご退任



業務補助 青山 さゆり 先生 ご退任



教頭 木村 広先生
島原翔南高校 へ



国語 宮原 隆史 先生
大村工業高校 へ



地歴公民 田尻 慎二 先生
清峰高校 へ



保健体育 黒江 英樹 先生
長崎北陽台高校 へ



商業 山崎 洋昭 先生
佐世保商業高校 へ



理科 西村 雅人 先生
平戸高校 へ



数学 礎 洋一郎 先生
佐世保工業高校（定時制）へ



国語 丸木 佑一郎 先生
壱岐高校 へ



副参事兼主任主事 古賀 眞智子 先生
川棚特別支援学校 へ

ますますのご活躍をお祈りします



〈校訓〉 自律・積極・究理

波高通信



〈スローガン〉 人間性を育み、仲間を支え、個性を磨く

第12号 平成27年3月24日発行

校長室より

「決意を新たに」



平成26年度が終了しました。皆さんが無事に進級できることを大変うれしく思います。この1年間、一人一人が、それぞれに頑張ったということです。

さて、3月1日、3年生143名が第38回卒業生として卒業し、全員が自ら選んだ道で、新しい人生の第一歩を踏み出しました。皆さんとともに彼らのこれからの頑張りを期待したいと思います。

ところで先日、とても嬉しいことがありました。ある事業所の方と話をしていた時のことです。昨年4月に入社した波佐見高校の卒業生の働きぶりを褒めてくださいました。その方の話では、その卒業生は、「人当たりが大変よく、常に相手の立場に立った言葉遣いや行動ができる。また、好奇心旺盛で様々なことに臆することなくチャレンジする姿勢がとてもよい。」ということでした。わずか1年間で、社会人としてとてもよく伸びたそうです。我が波佐見高校の卒業生をこれほど褒めていただいたのです。それを聞いて私がどれほど嬉しい気持ちになったかわかりますか？ 昨年度の卒業生なので、私はその卒業生の高校時代の様子を知りませんでした。そこで学校に帰ると早速、数名の先生に、その卒業生の人となりや、在学中の様子についてお聞きしました。すると、だいたい次のようなことがわかりました。その卒業生は、温厚・誠実な性格で、常に笑顔で人に接していたこと、本校入学当初から資格取得を一つでも多くとることを目指し、3年間で多くの資格を取得したこと、授業態度も真面目で、入学してからの3年間でかなり成績を伸ばしたこと、何事にもチャレンジする姿勢は人一倍強かったこと、基本的な生活習慣がきちんとしていて、健康管理にも気を配っていたこと、3年間部活動に励み、顧問や部員からの信頼も厚かったことなどです。この卒業生は、波佐見高校3年間で、一生懸命に学び、挑戦し、自らの個性を磨くことによって、学力も伸び、様々な能力がしっかりと身についたということでしょうね。そして、身についたことが会社の仕事に、そのまま活かされているということになります。この卒業生のように、ほとんどの本校卒業生が、高校で身に付けたことを活かし、頑張ってくれていることと思います。

高校の3年間で何を学び、何を身に付け、どんな高校生活を送るかということはとても大切なことです。社会で活躍するための最も大切なベースの部分、土台の部分がここで形作られるからです。つまり、高校3年間の学びが、その後の生き方に大きく影響を及ぼすのです。そこで、皆さん、自分のこの1年を振り返ってみてください。信頼される大人となり、社会で活躍するための土台作りがしっかりとできた1年間でしたか？

平成27年度も、私たち波佐見高校教職員は、皆さんが無事に卒業できるように、そして、卒業後も社会人として活躍できるように、皆さんに対して社会人としての基礎基本、学力の基礎基本をしっかりと教え、併せて、心や体も鍛えていきます。また、皆さんもその指導にしっかりと応えてください。

最後に、4月8日には、皆さんの後輩が胸を膨らませて入学してきます。その新入生をリードするのは、皆さん、上級生です。平成27年度、皆さんが決意を新たに頑張ってくれることを期待します。

(野田定延)



第38回卒業証書授与式

「希望を胸に元気に巣立ち」

3月1日(日)、第38回卒業証書授与式がありました。中島廣義県議会議員、一瀬政太波佐見町長をはじめ、多数のご来賓のご出席のもと、式は盛大に開催されました。卒業証書授与の後、野田校長の式辞、一瀬町長の祝辞、生徒会長の本山君の送辞と続き、最後に浦瑛樹さんが答辞をはじめると、卒業生の席からすすり泣きの声が漏れてきました。浦さん自身も、時折涙で声を詰まらせながら、感謝の言葉を述べました。涙の分だけ、思い出が溢れてくるのでしょうか。答辞の最後に「思い出にひとまず鍵をかけて、私たちは旅立ちます」とあり、しっかり前を向いて進む決意を示しました。山川千春保護者代表の謝辞のあと、卒業生全員が「ありがとうございました」と唱和する、嬉しいハプニングもあり、式は無事に終わりました。まだ肌寒さを感じる春の日曜日、143名一人ひとりが3年間の思い出が詰まった学び舎に別れを告げ、波佐見高校を巣立ちました。卒業生全員に幸あれと願います。

(教務主任 安達 健)



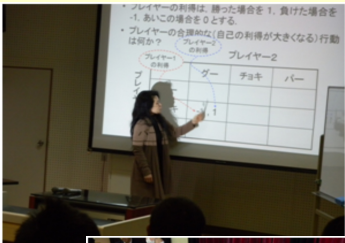
県立大学出張講義

ゲーム理論て何？

3月6日(金)長崎県立大学経済学部の有馬弥重准教授による「ゲーム理論と経済の関係」と題して「情報ゲーム」を利用した出張講義がおこなわれました。

事前の調査で、生徒の希望第1位にあげられた講義なのですが、おそらくほとんどの生徒がTVゲームやソーシャルゲームなどの今まで親しんだゲームを想像していたでしょうから、あらかじめ「ゲーム理論とは・・・」という話から始めてもらったのですが、最初はその必要性が全く理解できていなかったようでした。しかし、条件付けとその評価方法をしっかり体系化し数値化することで、「勝負に勝つための戦術」が明らかに見えてくるのがわかったときには、ゲーム理論の重要性を理解できたようでした。

(進路指導主事 宮崎 恵)



上海研修発表会

「海外へ目を向けるきっかけに」

平成26年度東アジア高校生友好キャリアアップ事業により、12月に中国上海市で活躍する日本企業や現地の高校を訪問した商業科4名の生徒が、1・2年生を対象に3月16日(月)、研修内容の報告をおこないました。

報告した生徒たちは今回の発表に先立ち、学級内で研修報告会を行って内容の改善と修正を図り、報告会に臨みました。概要や目的、参加志望理由なども述べ、研修全体のことが「聞く人に、よりわかりやすく」なることを心懸けて発表しました。

また、5日間にわたる研修をとおり、学んだことや感じたことを中心に報告しましたが、聴衆生徒の代表数人にお手伝いいただいてアイスブレーキング活動をしてもらい、報告内容について、より興味を持ってもらえるように工夫しました。

海外での企業経営における工夫や活動内容はもちろん、私たちが普段生活するうえでも参考にしたい貴重なお話を聞いたことが、聴衆生徒の皆さんにも伝わっていれば幸いです。これを機に、海外との文化交流や海外での企業活動に興味を持つ人が増えることを望みます。

(商業科 大田 公子)



就職ガイダンス

「半年後を見据えて」

3月6日(金)に波佐見町農村環境改善センターにおいて就職ガイダンスを実施しました。このガイダンスは長崎県労働局による事業で、就職希望の2年生を対象に、就職への動機付けや職業・企業選択能力の向上を図るものです。

当日は、63名が参加しました。3名の外部講師の指導の下、講話やゲームを通して、現在の就職環境や求められる能力、コミュニケーション能力を高める方法、業種・職種や雇用形態の種類、自己PRの要点等について学びました。

午後の部では3組に分かれて模擬面接を体験しました。最初は戸惑いが大きかったようですが、講師の先生の的確なアドバイスにより、短時間にもかかわらず上達が見られました。

ガイダンスの内容はとても役立つものでした。生徒たちが講師の指示をよく聞いて、スムーズに行動することができたことも収穫でした。物事に真剣に取り組む姿勢を今後も育てていきたいと思えます。

就職試験は半年後です。本番を見据え、自覚を高める良い経験になりました。(2学年主任 宮原 隆史)



1学年より

「成長著しい1年生」

入学して1年が過ぎました。入学前に思い描いた学校生活、宿泊研修で定めた目標がありましたか、今の自分はどうですか？想像より充実した生活を送った人、着実に目標に近づいている(結果が残せた)人、新たな友や仲間を作った人。

君たち1年生からいろんなことが始まりました。制服のリニューアル、直行バスの開通、そして美術・工芸科の新設。それに応えるように、君たち自身も新たなことに挑戦しました。大学探究、毎週末の漢字課題。実行委員が運営した百人一首大会、インターンシップ発表会。気がついていないかもしれませんが、実に大きく成長しました。先日学年内で表彰(漢字検定・商業検定・英語検定・部活動・皆勤)をしましたが、多くの生徒が対象となっていましたね。新たな波佐見高校の歴史を作り出そうとする君たちの姿勢は、結果として立派に表れていました。(拍手)

さあ、今からはより具体的に目標を定め、着実に前進していかなければなりません。そしてもっと多くのことに挑戦していきましょう。君たちの素晴らしい未来を、先生方全員が確信しています。

(1学年主任 川瀬 啓典)



直行バス開通式



百人一首大会

2学年より

「伸びる一年 伸ばす一年間」

『のびる一年間 のばす一年間』という年間スローガンを掲げた2学年も終わりです。できたこと、できなかったことについて、つらつらと考えているところですが、生徒諸君も同じだと思います。ここで、学年全体として簡単に振り返ってみたい。

インターンシップや修学旅行などの大きな学年行事は、大過なく実施することができ、一定の成果も得ました。職業意識や進路意識を高め、真剣に取り組むことの大切さを学んだと思えます。その一方で、小さな我が儘があちこちで顔を出すこともありました。

学習面では、欠点科目を持つ生徒が減ったのは良かったです。しかし、基礎学力や継続的な学習の定着は十分とは言えない状態です。

部活動や資格取得に関しては、それぞれ頑張った生徒諸君が大勢いました。初めての試みで秘書検定を受検し、見事合格した生徒もいました。今後も意欲を持って取り組んでほしいものです。2年生の女子の部活動入部率が低いので、資格取得を目指して勉強の時間に充てるなど考えてみてはどうでしょうか。

生活面では、一部ですが容儀が完全でない生徒がいます。最上級生を迎える自覚を持って、自主的に正して欲しいと思えます。

指導する側にいると、足りないところに目が行きがちで心配が先に立ちます。しかし、思いの外生徒が頑張りを見せた場面もありました。課せられたことの重要性を理解すれば、自分から動くことができるということがわかりました。こちらとしては、生徒たちに事の重要性をいかに理解させるか、その工夫が必要だと実感しました。いずれにしろ、成果と課題をしっかりと確認し3年次に備えたいと思えます。

就職試験まで半年。そのすぐ後には各種の推薦入試が控えています。残された時間は長くはありませんが、もう一伸びするには十分な時間です。春休み中から、規則正しい生活を送り、継続的な学習と部活動、進路研究に励んで欲しいと思えます。一気に事をなす魔法のランプはないので、日々是精進に努めるしかありません。2年生、いや新3年生諸君の健闘を願ってやみません。(2学年主任 宮原 隆史)